

平成22年3月30日

名古屋と伊勢志摩地区の輸送ネットワークを総括する

名古屋列車運行管理システム「KRONOS」が運用開始します

～平成22年4月1日から運用開始～

近鉄では、運転保安度向上と列車運行の円滑化を主な目的として名古屋地区を対象とした列車運行管理システムを構築しました。本システム構築工事は平成18年4月に着工し、平成22年4月1日から運用開始いたします。

列車運行管理システムとは、コンピューターを用いて列車の位置表示、進路（信号機・転てつ器）の自動制御、運転指令業務の支援、各駅のお客様案内等を行うシステムです。本システムの完成により既に運用されている大阪・奈良・京都方面と合わせて近鉄全線（一部支線を除く）にわたって運行管理システムが完備され、運転保安度とお客様サービスの向上に寄与するものと考えています。

なお本システムの名称は、KRONOS[クロノス]（Kintetsu Rapid Operated New Original System：近鉄独自の操作性に優れた新しいシステム）としました。クロノスとはギリシャ神話の翼を持つ時間の神で、クロノスの大きな翼を想起させる運行表示盤にちなんで命名しました。

概要は別紙の通りです。

（KRONOS：運転指令室）



概要

1. 運用開始日 平成22年4月1日(木)
2. 対象線区 名古屋線、大阪線(一部)、山田線、鳥羽線、志摩線、湯の山線、鈴鹿線
養老鉄道線(桑名~播磨・下深谷間)
計 196.3 km
3. 制御対象駅 50 駅
4. 付随する主なシステム
 - ・ 駅ホーム画像表示システム
 - ・ 風向風速監視システム
 - ・ 地震情報総合表示システム
 - ・ 雨量計システム
 - ・ 情報配信システム
5. 主な導入効果
 - ・ 列車運行状況の把握および運転保安度の向上
 - ・ ダイヤ乱れ時における、迅速で正確な案内によるお客様サービスの向上

